

# 幸千中学校区 コミュニティ・スクール 取組報告



「アンネのばら」

ホロコースト記念館(福山市御幸町)

# 内容

1. 「幸千中学校区コミュニティ・スクール」のテーマ
2. つながる教育活動
  - ◇ 地域の「人」・「もの」を活かす「御幸小学校」
  - ◇ 既存のものを活かす「千田小学校」
  - ◇ 地域の力を活かす「幸千中学校」
3. CSを導入して考えたこと

# 幸千中学校区CS『テーマ』

## 学校と地域の

## 探究的な協働学習を重ねて

～「ただいま」「おかえり」が通学路で響く

幸千中学校区を目指して～

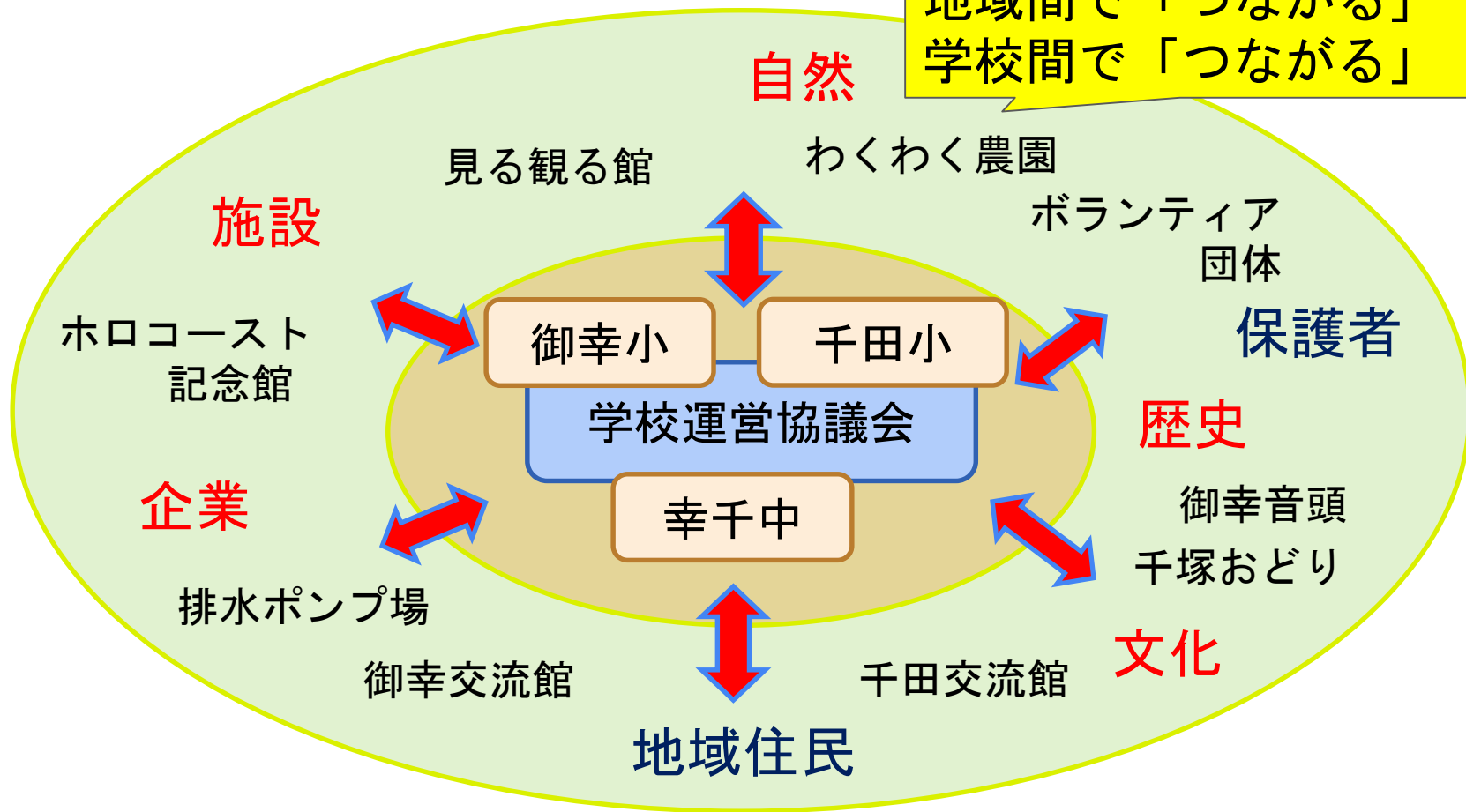


# 『テーマ』 設定理由

- 「熟議」を通して、学校と地域が互いの状況を知り、共通のめざす児童・生徒像に向けた取組を考えていく。
- 学校・地域ともに「協力」という意識から「協働」という意識への変換を行い、探究的な学習をこれまで以上に意義深いものにしていく。
- 学習を重ねながら、児童・生徒の地域に対する意識の変革（感謝の気持ち）、地域の方々の児童・生徒理解の深化（育む気持ち）につなげていく。

# 『組織』イメージ図

地域と学校が「つながる」  
地域間で「つながる」  
学校間で「つながる」



# CS導入にあたり既存の学習の整理・見直し

千田小学校

御幸小学校

幸千中学校

ふるさと・防災学習		
学年	内容	時期
1学年	千田川に思いをはせる。	2学期
2学年	千田川神事まつり（油揚げ）	4学期
3学年	町おこし祭り	
4学年	おこし祭り	
5学年	おこし祭り	
6学年	おこし祭り	

ふるさと  
防災学習

地域貢献活動		
学年	内容	時期
1学年	御幸川と千田川の源流	6月
2学年	まち歩き観察	2学期
3学年	町歩き観察	6月
4学年	町歩き観察	6月
5学年	町歩き観察	2学期
6学年	まち歩き観察	7学期

地域貢献  
活動

平和学習		
学年	内容	時期
1学年	平和について知る	5月
2学年	平和について知る	1～2学期
3学年	平和について知る	
4学年	平和について知る	
5学年	平和について知る	
6学年	平和について知る	

平和学習

学校と地域の探究的な協働学習

# CS導入にあたり既存の学習の整理・見直し

## 【ふるさと・防災学習】

- 幸千中学校
  - ・ HUG体験（避難所運営シュミレーション）（1学年）
  - ・ 福山探究学習（2・3学年）
- 千田小学校
  - ・ わくわく農園（2学年）
  - ・ 「SOU 造 プロジェクト」（6学年）
  - ・ 防災学習ゲストティーチャー（5学年）
  - ・ 校外学習（防災関連施設:排水ポンプ）
- 御幸小学校
  - ・ 野菜づくり（生活科）（2学年）
  - ・ 防災学習（総合的な学習の時間）（5学年）
  - ・ 校外学習（見る観る館）（4年生）

# CS導入にあたり既存の学習の整理・見直し

## 【地域貢献活動】

- 幸千中学校   ・ ボランティア活動
- 千田小学校   ・ ボランティア活動   ・ 千塚おどり（練習、公開）
- 御幸小学校   ・ ボランティア活動   ・ 御幸音頭（練習、公開）

## 【平和学習】

- 幸千中学校   ・ ホロコースト記念館   校外研修
  - ・ イベント参加（生徒会執行部   等）
  - ・ 校外研修   広島平和記念公園
  - ・ 修学旅行   長崎平和公園
- 千田小学校   ・ ホロコースト記念館   校外研修   ・ 広島平和記念公園研修
- 御幸小学校   ・ ホロコースト記念館   校外研修   ・ 広島平和記念公園研修



# 内容

学校間で「つながる」  
地域と学校が「つながる」  
地域間で「つながる」

1. 「幸千中」・「千田小」・「御幸小」のテーマ

## 2. つながる教育活動

◇ 地域の「人」・「もの」を活かす「御幸小学校」

◇ 既存のものを活かす「千田小学校」

◇ 地域の力を活かす「幸千中学校」

## 3. CSを導入して考えたこと

# 御幸小学校～地域の「人」・「もの」を活かす～

【御幸小4年 総合と地域の「人」・「もの」がつながった取組】



# 御幸小学校～地域の「人」・「もの」を活かす～

御幸小4年 総合と地域がつながった取組

## 「100歳体操」

## 交流館で「100歳体操」



「いきいき100歳体操」  
に参加！



御幸小100歳体操を  
月に1回提案！

## 御幸小100歳体操

御幸小 人  
4年 総合

御幸交流館

学校から相談

フードドライブ  
に協力



人

福山市北部東地域包括支援サプセンター加茂

人

しゃんしゃん御幸  
「いきいき100歳体操」

人

もの

もの

「フードドライブ」



御幸学区まちづくり推進委員会 地域福祉部会

人

## 「フードドライブ」

## 「フードドライブ」

全校に呼びかけ  
寄付する食品を回収！



全校で100点以上が  
集まる！

町民文化祭で  
フードドライブの回収  
を児童がボランティア  
で協力！

受付

# 御幸小学校～地域の「人」・「もの」を活かす～

【地域とつながる 学年がつながる～3・4年総合「御幸町に来てみん祭」】

3・4年生3学期 総合的な学習の時間

## 「御幸町に来てみん祭」の実施について

3年・4年

### 1. 目的

- ・これまでの学習でお世話になった方に感謝の思いを伝える。
- ・御幸町のよさを発信し、地域の一員としての自覚や地域愛を育む。
- ・地域の一員として、健康増進を図り、より良い御幸町づくりに参画する。

### 2. 期日

2025年（令和7年）2月26日（水） 10時15分～11時20分（3年）  
11時25分～12時10分（4年）

### 3. 御幸小学校体育館

### 4. 内容

3年 ・実践発表（スライドを用いて）  
4年 ・御幸小100歳体操

・巨大ゆきカルタ

・御幸音頭

### 5. 参加の依頼予定

- ・御幸学区まちづくり推進委員長 井上さん ・御幸音頭保存会
- ・御幸交流館館長 大河さん ・地域の方（まちづくり推進委員に依頼）

## 3・4年総合 「御幸町に来てみん祭」

### 3年

- ・ 巨大御幸カルタ
- ・ 御幸音頭



御幸の良さや伝統を  
発信する。

### 4年

- ・ 御幸小100歳体操



御幸に住んでいる人の  
健康増進を図る。

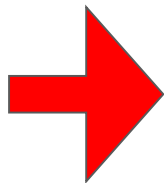


# 千田小学校 ～既存のものの活かす～

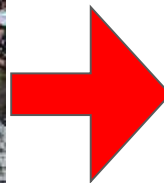
## 【地域の物的資源を活かした取組（2年生 生活科）】



わくわく農園での  
じゃがいも収穫



わくわく農園の方による、  
校内での野菜作りアドバイス



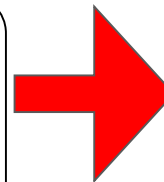
地域へ感謝の気持ちを伝える  
「ふれあい給食会」の企画

## 【地域の人的資源を活かした取組（2年生 生活科）】

地域にある  
疑問に思っ  
た場所を調  
べたい！



わくわく農園の人  
（交流館長）に  
相談しよう！



町探検（天申運輸の見学）

# 千田小学校～既存のものの活かす～

【地域の人的資源を活かした取組～交流館長からの紹介～】

3年生 社会科  
「火事からくらしを守る」



消防車や倉庫の見学

5年生 総合  
「防災」



ポンプ場の見学

6年生 総合  
「SOU造プロジェクト」



福山キッチン装飾さんの企  
業見学・体験

# 学校間で「つながる」 (御幸小・千田小)

2校の2年生での学習内容を確認し、野菜の栽培が同様の取組であることを生かし、それぞれの成果を模造紙にまとめ、交流した。



「わくわく農園（千田小）」と「野菜づくり（御幸小）」の学習の様子を、模造紙にまとめ、交流した。模造紙を交換し、各小学校に掲示することで、児童の「学校単位」から「幸千校区に住んでいる」という気持ちを醸成する。



# 幸千中学校 ～地域の力を活かした取組～

## 【読み聞かせボランティア（小中間）】

- ・ ボランティア活動の一環として読み聞かせに取り組むことで、生徒の自己肯定感を高めるとともに、児童が本に親しむきっかけとする。
- ・ CSの意義を鑑み、児童・生徒の交流の場となるよう取組を進める。



地域の方に読み聞かせ（交流館）



小学生に読み聞かせ（千田小・御幸小）



# 幸千中学校 ～地域の力を活かした取組～

## 【公開授業『HUG（避難所運営ゲーム）体験』】

- ・生徒の防災意識の高まりをねらう。
- ・公開授業にすることで、地域の学校理解の一助とする。
- ・パネルディスカッションを実施することで、地域防災への理解を深める。



## パネラー

- ・まちづくり推進員  
（千田・御幸学区）
- ・福山北消防署職員
- ・避難訓練担当職員
- ・安全委員会副委員長

# 内容

1. 「幸千中学校区コミュニティ・スクール」のテーマ
2. つながる教育活動
  - ◇ 地域の「人」・「もの」を活かす～「御幸小学校」
  - ◇ 既存のものを活かす～「千田小学校」
  - ◇ 地域の力を活かす～「幸千中学校」
3. CSを導入して考えたこと

# CS導入前と後で変わったこと

## 【教職員の意識の変化】

- めざす子どもの姿に向けて、「地域と協働しながら」取組を進めていくという共通理解
- 「CSの取組は難しい」から「CSは既存の取組の延長上にある」という意識
- 「学校で決定した取組を地域に協力依頼する」から「こんなことをしたい！地域に相談してみる」という意識

# CS導入前と後で変わったこと

## 【地域の意識の変化】

- ・ 評価する立場ではなくて、自分事として捉え、学校と一緒に、どうやっていくといいかなということ考えながら、私たち自身も運営に関わって、子どもたちと一緒に育てていこうという意識でやっていく。
- ・ この関わりが、将来の御幸・千田、そして福山市の盛り上がりにもつながっていくと思うし、私たち地域・企業も元気になっていくことがCSをやる意味だと思う。

## 課題・悩み → 解決に向けて

### ① CSの活動に係る予算(消耗品費)の使い道

→

- ・ 予算の使用事例をストックする。
- ・ 他の導入校と情報交流をする。
- ・ 目的を明確にし、適切か吟味する。
- ・ 不明な点は市教委に相談する。

# 課題・悩み → 解決に向けて

## ② CSに対する教職員の捉え方

→

- ・ やりっぱなしにならないよう、今年 of 取組について振り返って検証する時間をとる。
- ・ CSの取組を持続的に積み重ねていくことで生まれる効果を職員全体で共有する。

# 課題・悩み → 解決に向けて

## ③ 小中3校での共通理解について

→

- ・ 新しい企画については「企画書」を作成し、情報を共有する。
  - ※ 予算も含め、具体を明記することで、次年度の取組の整理・見直しや予算の使用事例のストックにもつながる。
  - また、熟議のテーマにもなる。

# 企画案

## 「コンポスト」でつなぐ地域の輪

※現在、取組進行中です。

### 取組実施までの流れ

- ① 企画立案（企画チーム）
- ② 学校内の決済・職員への周知
- ③ 学校運営協議会の承認
- ④ 予算執行相談
- ⑤ 取組実施

企画書「コンポスト（堆肥）でつなぐ地域の輪」	
1.目的	・コンポスト（堆肥）づくりを、小中の特別支援学級のカリキュラムに組み込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。 ・自らが作ったコンポスト（堆肥）が地域活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。 ・CSの意義を鑑み、児童・生徒の交流の場となるよう取組を進める。
2.組織	平千中 CS（企画・運営） 千田小 CS（運営） 御幸小 CS（運営） 学校運営協議会（承認） ◎ 小中での協働が必要であり、常に目的の共有や、取組状況など連絡をとりあうこと。 【運営チーム】 （主）野村英彦（CSR担当） 生活情報（教務主任兼小中教務調整） 西谷恵子（特別支援 Co 事務支援担当） 石井余保子（CSR 担当） 江島紀子（情報担当） 前村幹葉（CS 担当）
3.対象生徒・対象児童	特別支援学級 南園児童・生徒。
4.実施日	コンポスト設置より継続活動（通年） コンポスト納入日より 10 日後を設置日予定とする。 ※コンポストに肥料等 必要なもののため、前に課を取り付ける。（※千中で取り付く） ※コンポストにマーキング 「平千中学校区 CS コンポストでつなぐ地域の輪」。
5.取組概要	（1）コンポストを三基購入し、各校（平千中学校・千田小学校・御幸小学校）に設置する。 ※ 設置場所は各校で検討する。 東郷入字は、CS 予定とする。 ■（備前）・120 型（ 9,500 円）600×600×630 ・220 型（14,000 円）800×800×716、 ・300 型（19,000 円）840×840×900。 （2）特別支援学級のカリキュラムに組み込み、「堆肥パッケージデザイン」「コンポスト管理」などの活動（学習）を行う。 （3）各校のほら圖の増設として活用する。小学校では「園遊会活動」の増設としても活用する。 （4）地域の依頼に応じて、地域の施設や地域の商販に増設を交付する。（無償）。



# 企画書

# 「コンポスト」でつなぐ地域の輪

企画書「コンポスト（堆肥）でつなぐ地域の輪」

1. 目的、

- ・コンポスト（堆肥）づくりを、小中の特別支援学級のカリキュラムに組み込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。
- ・自らが作ったコンポスト（堆肥）が地域活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。
- ・CSの意義を鑑み、児童・生徒の交流の場となるよう取組を進める。

2. 組織、

幸千中 CS（企画・運営） 千田小 CS（運営） 御幸小 CS（運営） 学校運営協議会（承認）

◎ 小中での密な連携が必要であり、常に目的の共有や、取組状況など連絡をとりあうこと。

「運営チーム」、

（主）野村真彦（S2R 担任）

住谷昶紀（教務主任兼小中教務調整） 西谷典子（特別支援 Co 兼特支調整）

石井奈保子（S2R 担任） 江草紀子（情報担当） 折林朝葉（CS 担当）

3. 対象生徒・対象児童

特別支援学級 所属児童・生徒。

4. 実施日

コンポスト設置より継続活動（通年型）。

コンポスト納入時より 10 日後を設置日予定とする。

※コンポストに鍵設置 ※事故防止のため、蓋に鍵を取り付ける。（幸千中で取り付け）

※コンポストにマーキング 「幸千中学校区 CS コンポストでつなぐ地域の輪」。

5. 取組概要。

（1）コンポストを三基購入し、各校（幸千中学校・千田小学校・御幸小学校）に設置する。

※ 設置場所は各校で検討する。 ※購入予算は、CS 予算とする。

■（概算）・130 型（9,500 円）600×600×630 ・230 型（14,000 円）800×800×716、  
・300 型（19,000 円）840×840×900。

（2）特別支援学級のカリキュラムに組み込み、「落ち葉拾い」「堆肥パッケージデザイン」「コンポスト管理」などの活動（学習）を行う。

（3）各校のばら圃の堆肥として活用する。小学校では「園庭活動」の堆肥としても活用する。

（4）地域の依頼に応じて、地域の施設や地域の農園に堆肥を配付する。（無償）。

目的

組織

対象者

実施日

取組概要

# 目的

- CSの意義を鑑み、地域・児童・生徒の交流の場となるよう取組を進める。

- コンポスト（堆肥）づくりを、小中の特別支援学級のカリキュラムに組み込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。

- 自らが作ったコンポスト（堆肥）が地域活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。

## 企画書「コンポスト（堆肥）をつなぐ地域の輪」。

### 目的

- コンポスト（堆肥）づくりを、小中の特別支援学級の方の授業に組み込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。
- 自らが作ったコンポスト（堆肥）が地域活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。
- CSの意義を鑑み、児童・生徒の交流の場となるよう取組を進める。

### 対象

小千中 CS（特別） 千田小 CS（特別） 神奈小 CS（特別） 学校運営協議会（承認）  
※ 各学校の障害者支援科が対象であり、市に目的の共有、連絡状況など連絡をとりあうこと。

### 実施チーム

- (1) 野村清彦（CSR担当）
- (2) 田谷成記（教務主任兼小中教務調整） 森谷俊子（特別支援 Co 副校長室）
- (3) 石井裕子（CSR担当） 北沢紀子（情報担当） 明林悠美（CS担当）

### 対象生徒・対象児童

特別支援学級 高学年・中級

### 実施日

- コンポスト設置より継続活動（通年）
- コンポスト納入後より 10 日後を説明日とする。
- ※ コンポストに継続費 説明の停止のため、納入額を返り金とする。（※ 千中で見直し）
- ※ コンポストにマーケティング 「千田中学校区 CS コンポストをつなぐ地域の輪」。

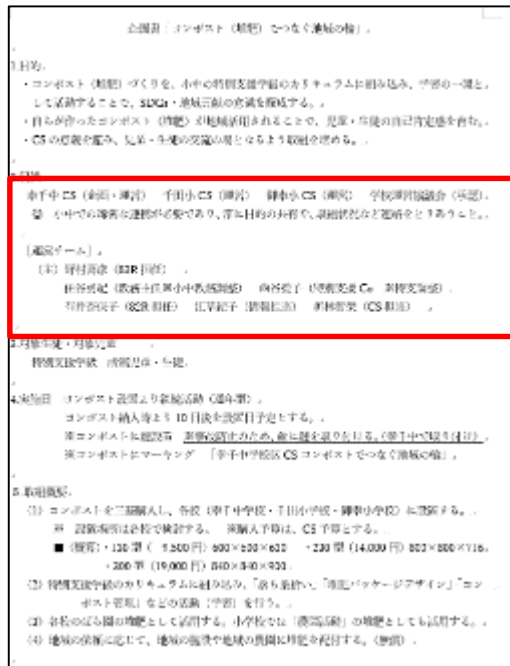
### 費用概算

- (1) コンポストを三機関入し、各校（千田中学校・千田小学校・神奈小学校）に設置する。
- ※ 設置場所は各校で検討する。 納入金千円は、CS 千円とする。
- 費用：120 円（ 5,500 円） 500×500×600 +230 円（14,000 円） 500×500×710 +200 円（15,000 円） 500×500×900。
- (2) 特別支援学級のカリキュラムに組み込み、「読み書き」「算数」「社会」「科学」「環境」「健康」「生活」などの活動（学習）を行う。
- (3) 各校の広場や庭に活用する。小学校では「環境活動」の活動としても活用する。
- (4) 地域の活用に応じて、地域の施設や地域の機関に提供を促す。（要請）。

# 組織

幸千中CS（企画・運営）  
 千田小CS（運営） 御幸小CS（運営）  
 幸千中学校区学校運営協議会

※ 小中での綿密な連携が必要であり、  
 常に目的の共有や、取組状況など連絡  
 をとりあうこと。



[運営チーム（幸千中）]

- ・ 特別支援学級担任
- ・ CS担当
- ・ 教務主任 ※小中教務調整
- ・ 特別支援Co ※特支調整
- ・ 情報担当

# 対象者

# 実施日

## 【対象者】

特別支援学級、児童・生徒、地域住民

## 【実施日】

- ・コンポスト設置より継続活動（通年型）
- ・コンポスト納入時より10日後を設置日  
予定とする。

※ コンポストに鍵設置

※ 事故防止のため、蓋に鍵を取り付ける。

（幸千中で取り付け）

※ コンポストにマーキング（スプレー）

企画書「コンポスト（箱型）」について（地域版）。	
1.目的。	・コンポスト（箱型）づくりを、小中の特別支援学級の方やスクールに招き込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。 ・自らが作ったコンポスト（箱型）を地域に活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。 ・CSの意識を高め、児童・生徒の活躍の場となるよう取組を進める。
2.経路。	幸千中 CS（計画・準備） 千田小 CS（準備） 神奈小 CS（準備） 学校運営協議会（承認） ※ 各小での準備は連携が前提であり、幸千中での準備や、取組状況など連携をとりあうこと。
3.実施計画。	（1） 野村町立（CSR活動） （2） 幸千中 CS（計画・準備） 千田小 CS（準備） 神奈小 CS（準備） 学校運営協議会（承認） （3） 幸千中 CS（計画・準備） 千田小 CS（準備） 神奈小 CS（準備） 学校運営協議会（承認）
4.対象児童・対象児童	特別支援学級（高学年・低学年）
5.実施方法	コンポスト納入後より10日後を設置日とする。 ※ コンポストに鍵設置 事故防止のため、蓋に鍵を取り付ける。（幸千中で取り付け） ※ コンポストにマーキング 「幸千中学校区 CS コンポストについて（地域版）」
6.費用負担	（1） コンポストを2個購入し、各校（幸千中学校・千田小学校・神奈小学校）に設置する。 ※ 設置場所は各校で検討する。 納入予定は、CS 予算とする。 ■ 費用：120 個（ 5,500 円） 500 × 500 × 600 → 230 個（14,000 円） 800 × 800 × 1100 → 200 個（19,000 円） 800 × 800 × 900 （2） 特別支援学級の方やスクールに招き込み、「遊びながら」「環境パッケージデザイン」「コンポスト活用」などの活動（学習）を行う。 （3） 各校の広さや環境に応じて活用する。小中学校では「環境版」の地図としても活用する。 （4） 地域の状況に応じて、地域の施設や地域の機関に活用を促す。（地図）

# 取組概要

企画書「コンポスト（肥料）をつなぐ地域の輪」。	
1.目的。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンポスト（肥料）づくりを、小中の特別支援学級の方やスクールに組み込み、学習の一環として活動することで、SDGs・地域貢献の意識を醸成する。</li> <li>・自ら作ったコンポスト（肥料）を地域活用されることで、児童・生徒の自己肯定感を育む。</li> <li>・CSの意識を高め、児童・生徒の意識の場となり学習を促める。</li> </ul>
2.計画。	<p>幸千中 CS（準備） 千田小CS（準備） 幸千中 CS（準備） 学校運営協議会（承認）</p> <p>※ 各小中の準備は連携が前提であり、幸千中目的の共有、協議状況など連絡をとりあうこと。</p> <p>【実施日程】</p> <p>（1） 肥料作成（CSR活動）</p> <p>（2） 肥料作成（CSR活動）</p> <p>（3） 肥料作成（CSR活動）</p> <p>（4） 肥料作成（CSR活動）</p>
3.対象生徒・対象児童	<p>特別支援学級 高学年・中・小</p>
4.実施日	<p>コンポスト設置より継続活動（通年）</p> <p>※ 設置場所は各校で検討する。 実施予定日は、CS予算とする。</p> <p>※ コンポストに設置費 設置の目的のため、趣意を添えていただく。（※「中」で「見直し」）</p> <p>※ コンポストにマーキング 「幸千中学校区 CS コンポストをつなぐ地域の輪」。</p>
5.取組概要。	<p>（1） コンポストを三基購入し、各校（幸千中学校・千田小学校・幸千中学校）に設置する。</p> <p>※ 設置場所は各校で検討する。 実施予定日は、CS予算とする。</p> <p>■ 費用：120 円（ 5,500 円）500×500×600 230 円（14,000 円）500×500×710、200 円（15,000 円）500×500×900。</p> <p>（2） 特別支援学級の方やスクールに組み込み、「落ち葉拾い」「堆肥パッケージデザイン」「コンポスト管理」などの活動（学習）を行う。</p> <p>（3） 各校のばら園の堆肥として活用する。小学校では「農園活動」の堆肥としても活用する。</p> <p>（4） 地域の依頼に応じて、地域の施設や地域の農園に堆肥を配付する。（無償）。</p>

(1) コンポストを三基購入し、幸千中・千田小・御幸小に設置する。

※設置場所は各校で検討する。

※購入予算は、CS予算とする。

(2) 特別支援学級のカリキュラムに組み込み、「落ち葉拾い」「堆肥パッケージデザイン」「コンポスト管理」などの学習を行う。

(3) 各校のばら園の堆肥として活用する。小学校では「農園活動」の堆肥としても活用する。

(4) 地域の依頼に応じて、地域の施設や地域の農園に堆肥を配付する。（無償）

## 活動の様子（コンポスト製作）

